

事後評価報告書(日フィンランド研究交流)

1. 研究課題名:「再生医療における新しい細胞マトリックス作成技術の開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:大阪大学 大学院医学系研究科 教授 澤 芳樹

2-2. フィンランド側研究代表者:ヘルシンキ大学 生物医療研究所 助教 Esko Kankuri

3. 総合評価:(B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

本プロジェクトは、我が国で開発した細胞工学の知見とヘルシンキ大学の *nemosis* と呼ばれる活性化細胞塊形成プロセスの技術を組み合わせ、機能的細胞シート創成に向けた国際協力であり、大きなスケールでの未来指向の研究開発である。

このような大規模なテーマに対して本国際科学技術協力推進事業は、予算規模において、代表者の想いを十分に満たしたものとなっていない。そのためか、例えば、日本側でこのプロジェクトで活躍した若手研究者の記載が提案書にはなく、提案書に記載されている第一の協力者と思える岡野氏の役割とその活動が報告書には見えない。

(2)交流成果の評価について

細胞シートの医療応用に関し、両国の先端研究グループの交流であり、未来指向の大きなスケールのプロジェクトであることは高く評価できる。一方、このような大規模な連携での本事業の果たした役割が、さほど大きくはないようにも見られる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本プロジェクトは、細胞工学の世界的な先端研究者による二国間共同研究であり、極めて未来志向の大規模なスケールの研究である。本事業による支援に基づき、両国間での研究交流がなされ、一定の成果を挙げたものと評価できる。他方、この交流に参加した若手研究者がプロジェクト参加者として提案書には記載されていないなど、大規模研究ならではの問題点を孕んでいる。本プロジェクトが、代表者の大きな研究構想の中でどのような役割を果たしたかの具体的な内容がより明確に記載されることが望まれる。

このような大規模な連携の中で本事業の果たした役割がさほど大きくないように見られてしまうことにつき、JSTにおいて予算規模の問題として今後検討されるべきである。

本プロジェクトは、研究内容のこれからの重要性を勘案すると、今後も持続的に交流を続け高い成

果に至ることが期待されるものであり、二国間にとどまらず、多国間で若手間の交流をより重点的に行うなどの試みが望まれる。